

風薫る週末5月16日(土)、大阪ミナミにおいて、関西慶應寮和会第7回定例懇談会が、初参加の5名(埴、山内、木下、早川、原OB)を始めとして過去最高の35名の出席者のもと開催されました。

＜参加者＞敬称略 (35名：部分参加も含む)

白石 英也 (S32経)	山本 恒徳 (S38経)	増田 登 (S40商)
由良 豊一 (S40商)	相本 琢郎 (S41法)	酒井 克己 (S42法)
仲野 剛 (S42法)	飛鳥 久範 (S43経)	中矢 隆雄 (S47政)
埴 博夫 (S47文)	松尾 哲雄 (S47経)	山内 正明 (S48商)
三角 竜二 (S49工)	鎌田 誠 (S51法)	青嶋 義晴 (S52工)
西村 元秀 (S53商)	清時 康夫 (S54法)	木下 真希 (S55工)
袖岡 稔 (S55商)	山代 和也 (S55法)	阪本 光宏 (S61商)
奥山 栄二 (S63経)	小堀 誠 (S63商)	竹崎 誉 (H02法)
茂木 裕康 (H03商)	浄住 徹朗 (H05経)	渡邊 正勝 (H06理)
小早川 直也 (H10商)	早川 亮典 (H10理)	兵藤 公治 (H10理)
脇田 圭吾 (H12総)	宮崎 博 (H16経)	柿塚 悠 (H24理)
原 宗一郎 (H24総)	松永 修 (S58工)	



＜写真1＞ 道頓堀角座 入口

I 大阪ミナミ 浪速文化に浸る 「笑う」「楽しむ」「食べる」

【第1部】道頓堀角座で「昼寄席」鑑賞 32名 14:30～15:40

大阪と言えば何といっても「笑い」。「笑い」抜きに大阪は、語れないということで、まず訪れたのが、道頓堀 角座(松竹芸能)です。
 ＜写真1＞楽しんだ昼寄席は、漫才、漫談、三味線漫談の計七演目。記者がテレビで見たことのある芸人(海原はるか・かなた、レツゴー長作)も観ることが出来、大いに笑わせてもらいました。

松竹芸能(株)の社長は日吉寄宿舍OBの井上貴弘OB(H02法学部政治学科卒)がされており、当日は残念ながら都合がつかなかったのですが、昼寄席終了後、特に、松竹芸能(株)の宮島プロジェクトリーダーから、お話を伺うことが出来ました。

テーマは『「笑い」を活用した教育/街づくり/健康増進事業』について、です。



＜写真2＞ 「B1角座」昼寄席後

松竹芸能では、「笑育」(わらいく:プロの漫才師／落語家と構成作家による小中学校への出前授業)を通じて、「人とつながること」や「コミュニケーションの大切」について子供たちにより深く考えてもらう取り組みを従来から展開してきました。その結果、この「笑育」を受けた子供達は、目に見えて積極的に行動が出来るようになってきたということです。

この実績を評価され、井上貴弘社長は、2014年10月1日付けで教育委員に就任され、12月からは、「こころの再生」府民運動を進めている大阪府教育委員会と共に、大阪府下の小中学校10校で、「笑育」の取組を推進されています。

また、他にも次のような取り組みの紹介がありました。

- ・道頓堀の地に、江戸時代からの歴史がある「角座」を復活
- ・高齢者などに健康増進プログラム「落語と体操」を提供。その後、運動能力健康状態をチェックし、参加者モチベーションを高めると共にプログラムの検証を実施

説明が終わってから、プロジェクトリーダー(前列左端)と写真に収まりました。

<写真2>



<写真3> どうとんぼり リバークルーズ 乗船場

【道頓堀 角座について】

昔道頓堀沿いには五つの芝居小屋(劇場)が有り、道頓堀五座と呼んでいた。西から東へ、浪花座・中座・角座・朝日座・弁天座が並んでおり、江戸から明治時代には歌舞伎、人形浄瑠璃が、大正から明治時代には歌舞伎だけでなく、演劇・喜劇・映画などの興行も加わり、ミナミの地に伝統とモダニズムの両輪が花開いた。しかし、戦後は、次々と姿を消し、本体が残るのは角座だけになってしまった。

そこで、地元商店街の人達の「先代から若い世代へ文化を継承したい」との強い思いから、「ミナミ五座文化再生フォーラム」を発足。早速、「藤山寛美十七回忌記念 大阪ミナミ映画祭」等の様々な形で具体化に動いた。

その中で、松竹芸能が、「落語・漫才・コントなど多彩な演目を行っているがなんでもあるのが大阪、何としてでも五座文化の灯を守り抜く」と、2013年7月に「DAIHATSU MOVE 道頓堀角座」を開業。ライブスペース「B1角座」は、連日笑いが絶えない。

<参考>もっと知りたい上方文化—過去と現在を訪ねる(日本経済新聞社)



<写真4>リバークルーズ 船上で

【第2部】 どうとんぼり リバークルーズ

33名 16:30～16:50

次に向かったのが、どうとんぼり リバークルーズです。〈写真3〉
これは、道頓堀川を約20分クルーズするのですが、大阪の最も活気にあふれたミナミの街を船中から楽しみました。〈写真4〉

印象的なことは、橋が予想以上に川面から低い位置にかかっていること。そのため、船中では立つことは絶対禁止でした。
川べりを歩いている多くの人達と手をお互いに振り合い、共に楽しむ。さすが、フレンドリーさは日本一のミナミでした。

【第3部】 懇親会 こてこ亭(東心斎橋)にて「大阪の食」を満喫

(お好み焼き、串カツ) 35名 17:10～19:10

まだ夕刻というのには少し早いのですが、お楽しみの懇親会場に向かいました。司会はいつもの通り西村幹事(渉外担当)。由良会長のご挨拶の後、白石OBの乾杯・音頭で懇親会を開会しました。

今回初参加の塙OB、山内OB、木下OB、早川OB、原OBからの挨拶がありました。中には東京から駆けつけてくださったOBもおられ、久しぶりの再会に、座も大いに盛り上がりました。〈写真5〉

全員で〈若き血〉を熱唱した後、増田会長補佐より謝意があり〈今までよりもこれからです。生命力ある 白い胡蝶蘭のように！〉と恒例の一本締めとされました。名残惜しかったですが お開きになり〈写真6〉それぞれミナミの街に向かいました。

II OFF-TIME

今回は、平成卒幹事の浄住さんと兵藤さんにインタビューしました。

〈浄住さん〉

趣味は熱帯魚、アウトドア等だそうですが、どれも中途半端と謙遜されます。しいて言うならゴルフだとか。電車とバスでゴルフ場に出かけ、帰りに飲みに行き(19番ホール?)例えゴルフがうまいかなくても、これなら楽しく家に帰れるとのこと。プレイの頻度は、真夏と真冬を除き、せいぜい1回/月くらい。〈写真7〉



〈写真5〉 由良会長を囲んで



〈写真6〉 尽きぬ話のしめくり

最初に始めた(当時の上司に勧められて道具一式を買った)のは15年以上前になるそうですが、やってて楽しいと感じるようになったのは「100の壁」にぶち当たった5年くらい前から。今でも年に1回くらいしか切れないが、先週、久しぶりにドライバーを買い換えたので、今回は切れる気がするとのこと。

「浄住さんにとってゴルフとは」との深遠な？問いをしたところ、「完全に修行です」との答えが即座に返ってきました。頭では解っているのに、つつい変なくせでやってしまう。自分が下手なだけなのに斜面や風のせいにしてしまう。経験が増すごとに反省が増えてしまうらしいです。また、人のプレーを妨げる人、スコアをごまかす人など、意外に人の本性が表れるもので、注意が必要だと肝に命じているとのこと。

「学生の頃はアメリカンフットボールをしていたのですが、さすがに今となっては出来ない。ただ、ゴルフなら年をとっても楽しめますし、現在中1の娘が大きくなったとき、一緒に廻れたらな」と嬉しそうに結ばれました。



浄住さん

<写真7> 浄住さん ゴルフとアフターライフ

<兵藤さん>

兵藤さんの趣味は、映画・ゲームとバドミントンです。

映画は葛葉モール(通勤経路)に映画館ができたので、会社帰りにレイトショーを見て帰ることもあるそうです。ゲームの方は最近は携帯ゲームを電車移動中に遊ぶことが多かったのですが、GW前に久しぶりに家庭用ゲームを買い、GWは家の片付けとゲーム三昧だったそうです。

メインの趣味はバドミントンですが、月に3-4回練習をしているとのこと。高校のとき部活でやっていたらしいのですが、入社後2000年に会社のバドミントン部が公認になり以降続けられています。

バドミントンの魅力は体力維持、試合に参加することで運動へのモチベーション、先輩後輩との交流等いろいろあるとのこと。部署を問わず若手の後輩と交流ができるのは会社のクラブならではの。試合に出るためにジムへも通って体力維持に努めている程の熱の入れようで、30代にしっかりと体を作り、今後も続けていきたいと考えているそうです。

今後の目標は、来年3月のシングルの試合に出ること。ずっとダブルスだったので<写真8>、3月に後輩のシングルの試合の応援に行って自分もシングルがやりたくなったそうです。「その試合に合わせてジムでもしっかり走りこんで結果を出したいですね」と力を込めて結ばれました。



兵藤さん

<写真8> 兵藤さん京都府のダブルスの大会で入賞
<相手は殆ど高校生らしいが、凄い！>

Ⅲ 編集後記

昨年の定例懇談会が、春は奈良、秋は京都とく「古都巡り」だったので、今回の大阪ミナミの「お笑い」は趣向が変わって、楽しみにしていました。

角座では、お笑いも面白かったし、「笑育」の取組のお話も有意義でした。今まで、我々のイメージ「松竹芸能＝芸人のマネジメント会社」を超えた、現代人にとり最も必要な「こころの再生」を事業の中核に据えている経営について学ばせて頂き、大変に勉強になりました。

また、何より、日吉寄宿舍OBの井上貴弘社長が、大阪の文化の担い手として、会社をそして大阪を、引っ張っていかれているということが、同じOBとして誇らしく感じました。また、角座に足を運びたいと思います。

懇親会終了後、記者は若手メンバーと二次会に向かいました。〈写真9〉年代は違っても、寮出身の皆さんと飲むのは、タイムスリップして楽しく、いつまでも話題は尽きませんでした。…次の機会楽しみにしています。

さて今回は、過去7回の定例懇談会で最も多い35名の方に出席して頂きました。(うち、11名が平成卒業)

右の〈出席者数推移〉に示すように、出席者数は春秋それぞれ着実に増えています。もちろん、大事なことは定例懇談会の内容の充実であり、出席者の数を問題にするのではありません。ただ、会の盛り上がりを示すバロメーターにはなると思います。その意味では、いまのところ順調ということで大変嬉しく思います。また、春より秋の方が出席者数が少ないことも判りましたので、秋の定例懇談会は、より一層楽しい企画を行い、盛り上げていきたいと思ひます。

秋の第8回定例懇談会は11月14日(土)を目途に、事務局で内容を検討しています。詳しくは、計画が出来次第、連絡します。会員の皆様で誘いあってのご参加をよろしく願ひします(なお、企画内容によっては、日程を変更することがあることをあらかじめご了承ください) 以上

●寮和会報(9月発行)への寄稿のお願い

今回の定例懇談会で出席者の皆様にはPR済みですが、〈寮の思い出〉をテーマに、寄稿をお願いします。なお、昨年9月号は、関西慶應寮和会：小堀OBに寄稿頂きました。寄稿して頂ける方は、7月15日までに松永まで連絡をお願いします。なお、原稿〆切は、8月15日です。

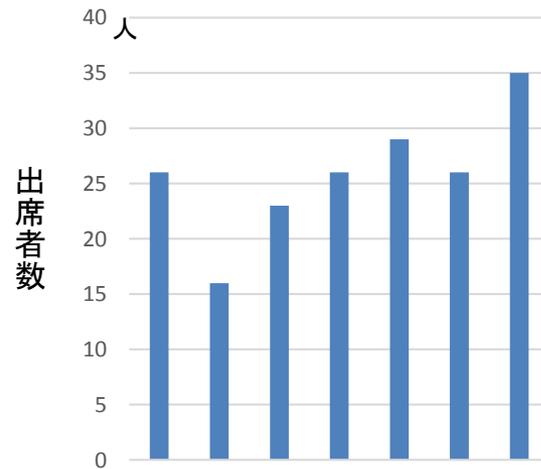
【松永連絡先】 ☎075-331-8938

メール: syhfr276@ybb.ne.jp



〈写真9〉 二次会 若手メンバーと

定例懇談会 出席者数推移



- ①大阪中之島 適塾見学 (12/9/22)
- ②大阪福島 ラグビー慶早戦モニター応援 (12/11/23)
- ③京都伏見 酒どころ散策 (13/4/29)
- ④宝塚観劇、小林一三ツアー (13/10/27)
- ⑤京都散策 (14/5/27)
- ⑥京都蹴上 散策 (14/11/3)
- ⑦大阪ミナミ お笑い鑑賞 (15/5/16)